

淡路支部 第43回支部総会記念講演

感想文  
開業医が取り組む  
COVID-19治療

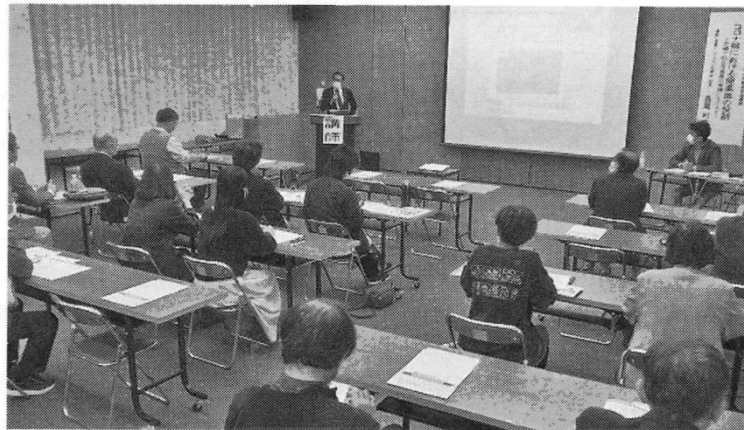
淡路支部は10月23日、洲本市内で第43回支部総会を開催し、26人が参加した。総会議事では2020年度活動報告と2021年度活動方針案を承認し、評議員と支部役員の改選を行った。総会記念講演では「コロナ禍における開業医の役割」をテーマとして、尼崎市・長尾クリニックの長尾和宏院長が講演した。三木隆彦先生の感想を紹介する。

COVID-19患者さんをくさんの患者さんを実際に診多く診療され、在宅治療も積極的に行われてきた経験に基づいたお話を、説得力がありました。また、自院で6000人に新型コロナワクチン接種もされた。

先生はこれまで1200人ものCOVID-19患者さんを診断され、その治療や在宅診療をされておられます。た

たのごことです。

COVID-19の治療については、イベルメクチンやデカドロンの使用、在宅酸素療



記念講演に26人が参加し、コロナ禍で開業医が果たせる役割について議論した

法等、多様にされています。認知症患者さんへの在宅治療の大変な御苦労もされています。

私はこれまでCOVID-19の診断をしたら、保健所に報告するだけで、その後は患者さんにはほぼノータッチに

また、イベルメクチンを実際に使われて、効果を確認されています。イベルメクチンに関しては、北里大学にも行かれ、同業の開発者でノーベル賞を取られた北里大学の大村智教授から直々に勉強もされています。開業医でも処方できるようにすれば、インフルエンザのようにCOVID-19を診療することができると思います。

【洲本市 三木 隆彦】